

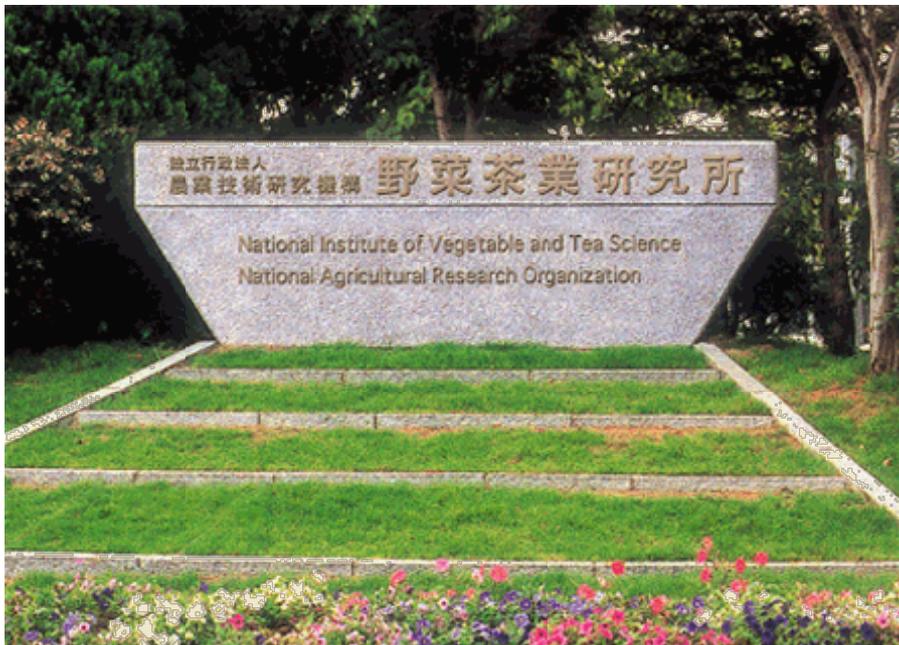


野菜茶業研究所ニュース

2001.7 創刊号

CONTENTS

- TOP ● 野菜茶業研究所 門標除幕式
- [視点](#) ● [野菜茶業研究所の発足に当たって](#)p2
- [お知らせ](#) ● [野菜茶業研究所の研究目標](#)p4、[組織、研究拠点の所在地等](#)
- [研究会の案内](#) ● [平成13年度野菜・茶業課題別研究会日程](#)



平成13年4月2日
独立行政法人農業技術研究機構
野菜茶業研究所門標除幕式を行った
(左：石内所長、右：藤田総務部長)

-1-

視点

野菜茶業研究所の 発足に当たって

独立行政法人 農業技術研究機構理事(園芸研究担当)

中村 浩

独立行政法人農業技術研究機構が、本年4月1日に発足した。これにともない、長く親しんできた野菜・茶業試験場が衣更えし、野菜茶業研究所となった。

衣を更えれば、気分が変わる。その新しい気分について若干述べたい。

[研究対象は身近な品]

およそ食事をする人で、野菜を口にしない人は、日本はおろか世界にも余りいまい。生命を育み維持するために、三度三度身体へ取り込み続ける大切な品が野菜である。日常茶飯事という言葉があるように、日本人は古くから毎日数度ならず茶を嗜しなってきた。日常生活に与える茶の効用は計り知れない。野菜茶業研究所の研究対象は、国民にとって大変身近で大切な品であることを銘記したい。

近年、食生活の乱れ、青少年による犯罪の多発が懸念されている。茶を飲みながら団らんする家庭から、凶悪犯人は出ないと聞いたことがある。こうしてみると、野菜や茶の今日的消費実態を見据えて研究目標を立て、国民全体に受け入れられる成果を上げる必要がある。非現実的、抽象的な問題意識からの研究への取り組みが、人々に歓迎されるとは思えない。つまり、国民に開かれた研究所としなければいけないと思う。

[野菜と茶の生産を巡る状況]

京都中央会の中川泰宏会長は、「中国の農業を自分たちの目で確かめることが大事。京野菜はブランド化で成功しているが、将来に備えて知恵を絞り、生き残る道を探る必要がある」と話しているという。

生産現場の人々は、このようにして今後の道を探ろうとしている。野菜茶業研究所も国内の生産現場だけの情報に基づいて研究の将来方向を探るのでは、的を外す恐れがある。

様々な手段を構じて、情報の集積に努める必要がある。すなわち、従来に増して目を世界に向けた研究所としなければならない。

[研究の種は山のようにある]

青年研究者が昔、「野菜の研究論文を沢山読んだ。先輩が殆ど研究していて、もうすることはないくらいだ」といった。私は、「野菜農家へ行って話し合えば、悩みや問題をいっぱい聞ける。研究者が10年かかっても解決が難しい課題が山積している。論文を読むのも仕事の内だが、それだけでは駄目だ。農家の声に耳を傾けよ」といい返した。好きこそ物の上手なれという。

いやいや取り組んでも研究成果は上らないものである。意気込んで取り組む課題を掘り起し、問題解決のために、自然と向き合うと対象は甚だ複雑である。それを解きほぐす面白さは格別である。その場合、一人よりも多人数の知恵を集めるのに越したことはなく、日

ネギ、生シイタケ、イ草に関する一般セーフガード（緊急輸入制限措置）の暫定措置発動にみられるように、近隣諸国から日本へ向けた農産物の輸出攻勢が強まっている。通商白書では、東アジアが大競争時代に入っていると分析している。野菜も茶も、この競争の中にあるのが実態である。

5月26日付の日本農業新聞によると、JAグループ京都は、中国の野菜や茶の現地調査を行うため調査団を組織し、今後11月までに、農家やJA役職員ら約千名を現地に送る計画であり、このほど野菜関係の30名が、山東省を訪れた。

常の活発な論議を積み重ねる中で研究を進めたい。野菜茶業研究所の組織と個々の研究者の研究意欲の強弱が、野菜と茶の将来を左右するといっても過言ではない。張り切って研究する人々をみれば、研究を支援する人々の仕事のやり甲斐も高まり、研究スピードは速まる。

研究所の構成員一同が、置かれた状況と立場を理解し、協力して野菜と茶を取りまく諸問題の解決に努力することによって、国民の皆さんに喜ばれる研究所でありたい。

野菜茶業研究所では以下の研究課題に取り組みます。

背景

- ・ 高齢化・後継者不足による担い手の減少と栽培面積の減少による自給率の低下
- ・ 農業生産がもたらす環境負荷への懸念
- ・ 急激な国際化による輸入野菜・茶の増大
- ・ 気象災害、病害虫、連作障害による作柄の不安定
- ・ 安心・安全な国内産の生鮮野菜と茶の安定供給に対するニーズ

研究問題と主要研究課題

— 野菜と茶の —

- 省力・低コスト・安定生産技術の開発
 - ・ 省力・機械化適性育種素材・品種
 - ・ 生育特性の解明に基づく生育制御技術
 - ・ 機械・資材等の利用技術と省力・軽作業化・低コスト・安定生産システム
- 環境負荷低減技術の開発
 - ・ 病害虫抵抗性及び少肥適性育種素材・品種
 - ・ 病害虫の発生生態の解明と生物機能を活用した省農薬防除技術
 - ・ 養分の吸収特性と動態の解明に基づく施肥・土壌管理技術
- 消費ニーズに対応した高品質生産・流通技術の開発
 - ・ 高カロテンニンジン、低カフェイン等の需要拡大を目指した画期的な育種素材・品種
 - ・ 有害微生物・重金属等の動態解明と評価技術
 - ・ 新規利用・加工・流通技術
- 生産・流通・利用技術の開発を支える基礎的・基盤的研究
 - ・ 遺伝資源等の収集・評価・保存及び有用形質の遺伝子解析とDNAマーカー
 - ・ 生育転換機構・環境ストレス耐性・収穫後生理の解明とその制御技術
 - ・ 抗アレルギー物質等機能性成分の解明と評価・増強・利用技術

社会への貢献

- ・ 野菜・茶の生産・流通・加工に関する革新的技術
- ・ 安心・安全で多様な野菜と茶の供給による豊かで健全な食生活の実現
- ・ 野菜と茶の生産振興策の推進による農業・農村の活性化と農地の保全
- ・ ゆとりと安らぎに満ちた社会の実現

農業技術研究機構の組織

理事長、副理事長、理事、監事

- 本部
- 中央農業総合研究センター
- 作物研究所
- 果樹研究所
- 花き研究所
- **野菜茶業研究所**
- 畜産草地研究所
- 動物衛生研究所
- 北海道農業研究センター
- 東北農業研究センター
- 近畿中国四国農業研究センター
- 九州沖縄農業研究センター

研究拠点の所在地

独立行政法人 農業技術研究機構 理事(園芸研究担当)
野菜茶業研究所(安濃) 駐在
TEL: 059(268)1337 FAX: 059(268)1339

○野菜茶業研究所

企画調整部/総務部/果樹茶業研究部/機能解析部
〒514-2392 三重県安曇郡安濃町大字草生360
TEL: 059(268)1331(代)、FAX: 059(268)1339
URL: <http://vegetea.naro.affrc.go.jp>
〔近鉄 津新町駅より、三重交通バス市場行き又は榎本行き、
安濃町役場前又は花木下車徒歩30分、駅前よりタクシーあり。〕

○つくば野菜研究拠点

〒305-8666 茨城県つくば市南台3-1-1
TEL: 0298(38)8529(代)、FAX: 0298(38)8529
〔JR常磐線 牛久家よりバス、農研印地中央下車徒歩5分〕

○金谷茶業研究拠点

〒428-8501 静岡県榛原郡金谷町金谷2769
TEL: 0547(45)4101(代)、FAX: 0547(46)2169
〔JR東海道線 金谷駅より、相良・藤原行きバス、茶試館下車〕

○武豊野菜研究拠点

〒470-2351 愛知県知多郡武豊町字南中敷40-1
TEL: 0569(72)1166(代)、FAX: 0569(73)4744
〔名鉄河和線 知多武豊駅下車、徒歩10分〕

○枕崎茶業研究拠点

〒898-0032 鹿児島県枕崎市別府15451
TEL: 0993(76)2126(代)、FAX: 0993(76)3264
〔JR鹿児島本線 百鬼見島駅よりバス、枕崎駅下車、タクシー10分〕

・盛岡圃地研究室

〒020-0123 岩手県盛岡市下原川字藤屋敷92
TEL: 019(641)2031(代)、FAX: 019(641)6315
〔JR東北本線 盛岡駅より東北バス、森林総合研究所前下車徒歩3分〕

・久留米圃地研究室

〒839-8503 福岡県久留米市御井町1823-1
TEL: 0942(43)8271(代)、FAX: 0942(43)7014
〔JR鹿児島本線 久留米駅より西鉄バス、野菜試館下車〕

独立行政法人 農業技術研究機構 野菜茶業研究所の組織

園芸研究担当理事(安濃)



平成13年度野菜・茶業課題別研究会日程

課題別研究会名/とき/ところ		
●輸入急増に対応した野菜の高品質・安定生産技術の現状と今後の課題 (問い合わせ先：葉根菜研究部 作型開発研究室TEL. 059-268-4631)	平成13年9月 17日(月)～18日(火)	茨城県つくば市 (つくば農林ホール ・筑波事務所3階)
●果菜生産の肥培管理を巡る21世紀の潮流 (問い合わせ先：果菜研究部 環境制御研究室TEL. 0569-72-1647)	平成13年10月 18日(木)～9日 (金)	愛知県武豊町 (武豊町立中央公民館)
●バイオテクノロジーを利用した野菜育種の現状と問題点 (問い合わせ先：葉根菜研究部アブラナ科育種研究室TEL. 059-268-4654)	平成13年11月 8日 (木) ～9日 (金)	三重県津市 (三重県総合文化センター)
●農薬使用量の低減化のための茶病害虫管理技術研究の現状と展開方向 (問い合わせ先：茶業研究部 虫害研究室TEL. 0547-45-4693)	平成13年11月14 (水)	静岡県金谷町 (お茶の郷)

野菜茶業研究所ニュース創刊号【2001年（平成13年）7月発行】

編集・発行：独立行政法人農業技術研究機構野菜茶業研究所

National Institute of Vegetable and Tea Science (NIVTS)

National Agricultural Research Organization (NARO)

〒514-2392 三重県安芸郡安濃町大字草生360番地

TEL 059 (268) 4626 (情報資料課) FAX 059 (268) 1339

ホームページ<http://vegetea.naro.affrc.go.jp>

